

環境創造センター 整備事業 の概要について

平成 26 年 12 月



イメージパース

福 島 県

○ 三春町施設

配置図	1
本館イメージパース	2
本館平面図	3
研究棟イメージパース	4
研究棟平面図	5
交流棟イメージパース	6
交流棟平面図	7
附属施設（大玉村）	8
附属施設（猪苗代町）	9

■計画の基本方針

- ・モニタリング、調査・研究、情報収集・発信、教育・研修・交流の4つの機能を効果的に発揮させる。
- ・(独)日本原子力研究開発機構及び(独)国立環境研究所を招致するとともに、国際原子力機関(IAEA)緊急時対応能力研修センターを誘致。
- ・防災拠点として必要な機能をもち、再生可能エネルギーを利用。
- ・子供たちはもとより国内外からの見学者を迎えるられる県民に開かれた施設。

■案内図

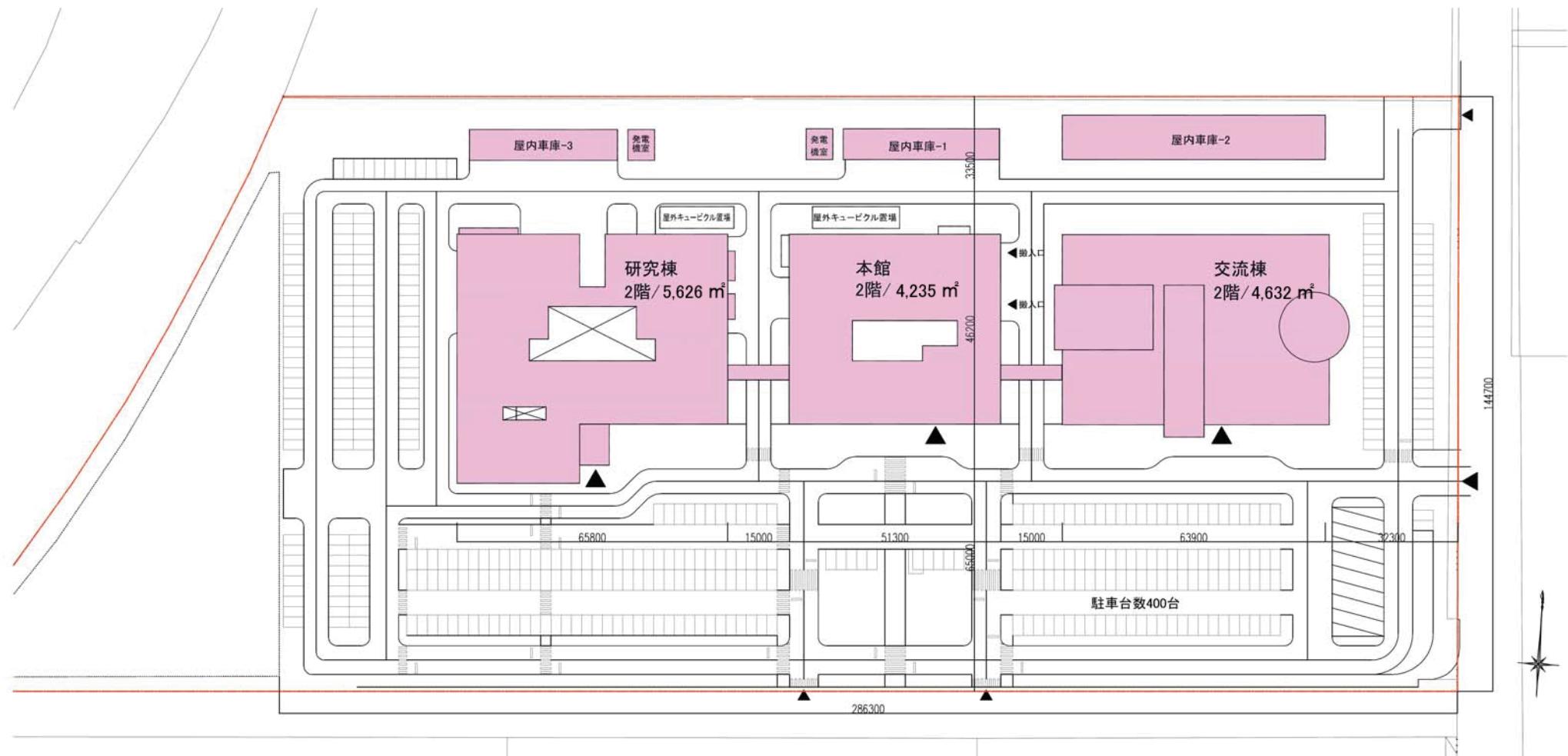


■敷地・建物概要

敷地概要	
建物場所	福島県田村郡三春町深作地内
敷地面積	46,363m ² (平地面積)
地域地区	非線引都市計画区域
用途地域	工業地域
防火地域	指定無
前面道路	東側16m、南側10.5m

建物概要

本館	4,235m ²
研究棟	5,626m ²
交流棟	4,632m ²
合計	14,493m ²



本館

建築面積 : 2,192m²
延床面積 : 4,235m²
階数 : 地上2階
構造 : 鉄筋コンクリート造
建物構成 : 分析室、研究室、事務室
発電機室 : 48m²



■ 建筑概要

本館は、県内の環境回復・創造の中核施設です。

環境放射線のモニタリングや調査研究を行うエリア、大気、水、廃棄物のモニタリングや調査研究を行うエリアにより構成し、調査分析・研究機能を充実・強化します。また、研究棟・交流棟を含めた施設全体の管理を担います。

■配置・平面計画

- ・南側道路よりアプローチする計画です。
 - ・居室及び会議室を南側に配置します。
 - ・分析室は東、西、北の3面に配置します。
 - ・中庭を介して居室ゾーンと分析ゾーンを視覚的に繋げています。
 - ・渡り廊下で西は研究棟、東は交流棟と接続します。

■断面計画・各階の構成

- ・IAEA緊急時対応能力研修センターを1階に配置します。
 - ・重量物や外部との試料の直接出入の多い分析室等は1階に配置します。
 - ・管理の必要な排水の多い分析室等は2階に配置します。
 - ・事務部門は1階南側に集約配置します。
 - ・研究棟との連携利用が想定される会議室は2階南側に配置します。



1階平面圖



2階平面図

商务密语

放射能調査研究エリア

環境調查研究工具

研究棟・建築概要

建築面積	: 3,112m ²
延床面積	: 5,626m ²
階数	: 地上2階
構造	: 鉄筋コンクリート造
建物構成	: 研究室、分析室、実証実験室、事務室
招致機関	: 独立行政法人 日本原子力研究開発機構 独立行政法人 国立環境研究所

用途

- ・環境創造センター研究棟は、招致する（独）日本原子力研究開発機構（JAEA）及び（独）国立環境研究所（NIES）とともに県を含む三者が連携協力し、除染技術、放射性物質の環境動態解明、廃棄物・土壌の処理技術など、本県の環境の回復・創造に向けた調査・研究を行う施設です。
- ・（独）日本原子力研究開発機構は、主に放射性物質による環境の汚染を除去し、環境を回復・創造させるための調査及び研究開発を行います。
- ・（独）国立環境研究所は、主に汚染廃棄物・土壌の処理技術の評価・開発や放射性物質の環境動態解明など、環境の回復・創造のための調査・研究を行います。



■配置・平面計画

- 研究棟は3棟の中で最も西側に配置されます。
- 南側道路よりアプローチする計画です。
- 入口から右手、東側の1・2階が（独）日本原子力研究開発機構のエリアに、入口から左手、西側の1・2階が（独）国立環境研究所のエリアとなり、中央部にある中庭等の空間によって区分しながらも視覚的に繋がる空間構成です。
- 事務室、会議室等を南側に配置し、実験室・分析室・実証実験室等を北側に配置します。
- 2階東側の渡り廊下で本館と接続し、三者が連携・協力して調査・研究に取り組みます。

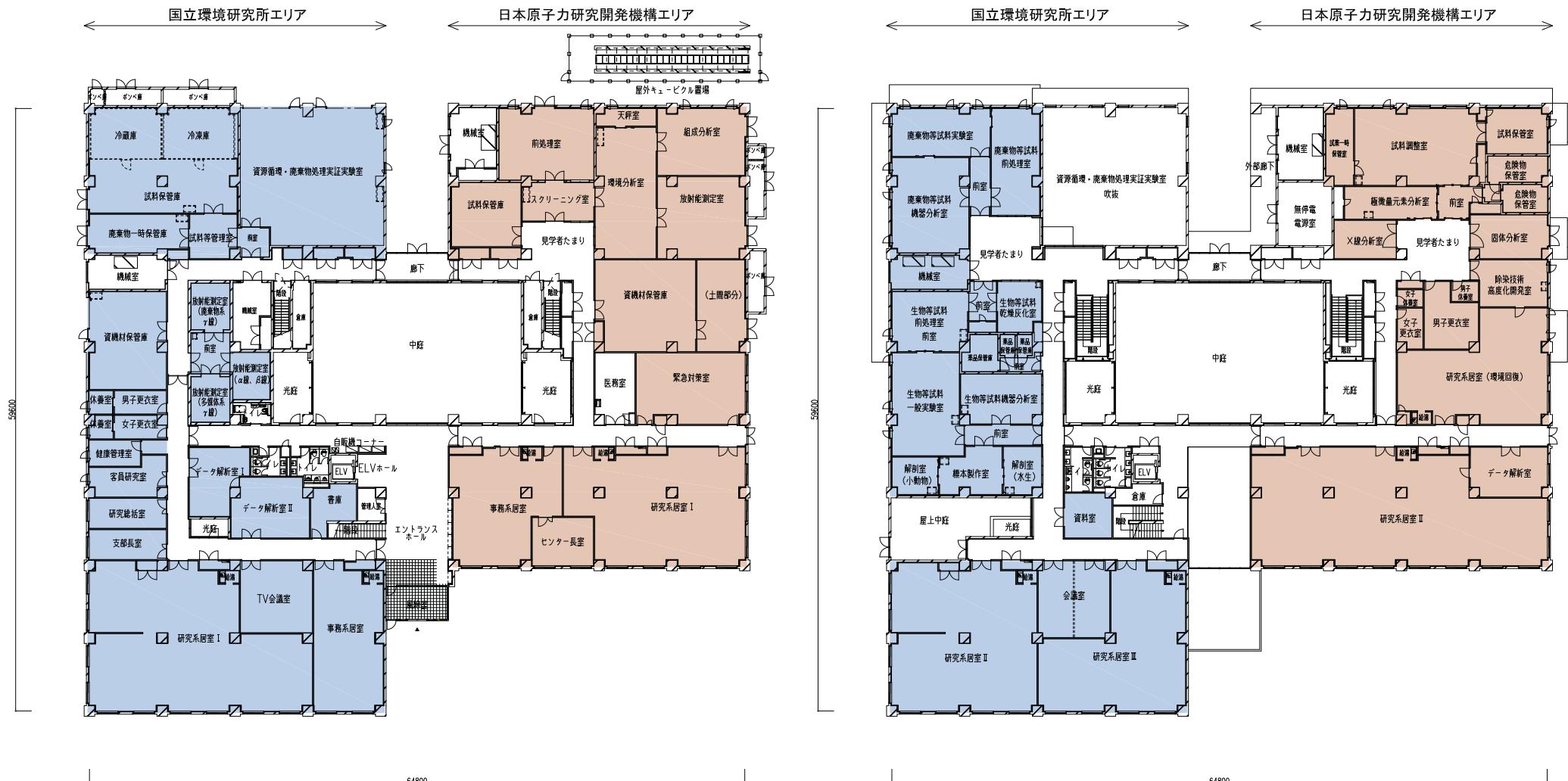
■断面計画・エリア構成

（独）国立環境研究所エリア

- 1階入口左手に事務系居室を配置します。
- 研究系居室は1・2階の南側に配置し、分析室・実験室等を北側に配置します。
- 放射能の測定機器を置く測定室や試料保管庫、資機材保管庫等は1階に配置します。
- 廃棄物や生物等を扱う実験室・分析室は2階に配置します。
- 資源循環・廃棄物処理実証実験室は吹き抜けとし、実験プラント等を設置し広いスペースを活用した実証実験ができるようにします。
- 来館者が施設見学を行なうように、実証実験室や廃棄物・生物等の分析室の前に見学者たまりを設けます。

（独）日本原子力研究開発機構エリア

- 1階入口右手に事務系居室を配置します。
- 研究系居室は1・2階の南側に配置し、分析室・試料保管室等を北側に配置します。
- 放射能の測定機器を置く測定室や資機材保管庫等は1階に配置します。
- 除染技術の開発や環境中セシウムの移動挙動を調査する実験室・分析室は2階に配置します。
- 来館者が施設見学を行なうように、スクリーニング室や精密分析を行う分析室等の前に見学者たまりを設けます。



交流棟

建築面積 : 2,927m²
延床面積 : 4,632m²
階数 : 地上2階
構造 : 鉄骨造
建物構成 : 展示室、ホール、会議室 等

建築概要

- ・ふくしまの子どもたちが安心して輝く未来を創造するための交流棟です。
- ・子どもたち・県民とともにふくしまの未来を創造する「対話と共創の場」とします。
- ・ふくしまの環境を知り、創り、発信する展示エリア、国際会議・学会・シンポジウム等を開催する会議室エリア及び管理エリアにより構成されています。
- ・防災拠点としての機能を持ち、本館と併せ60kWの太陽光パネルを設けることにより、再生可能エネルギーの利用と普及啓発を図ります。



■玄関・管理エリア

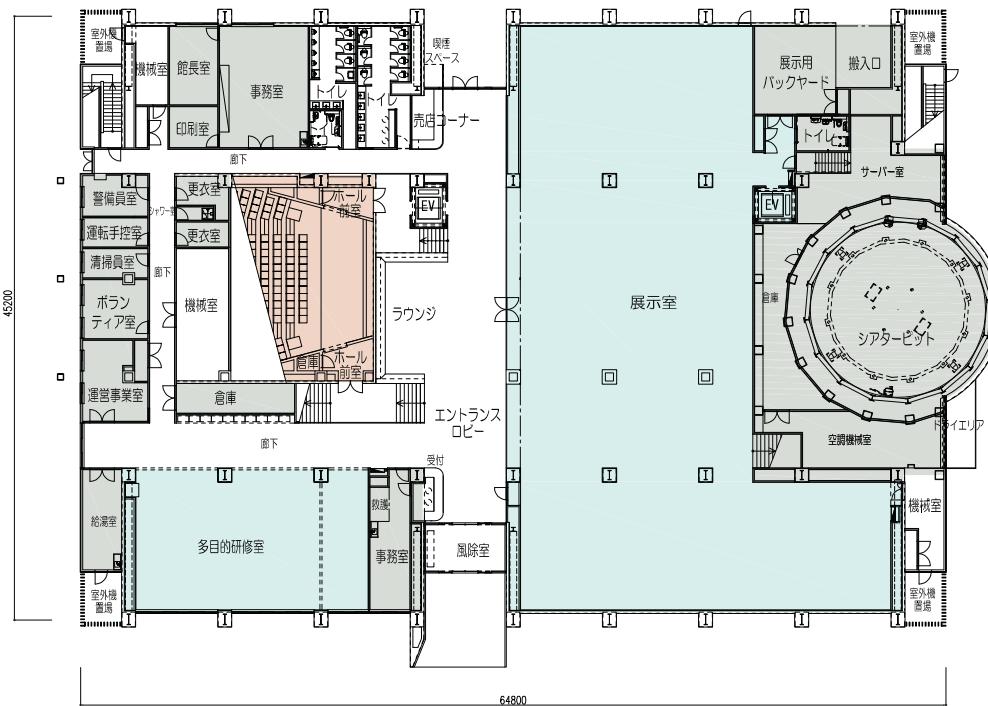
- ・正面玄関入口を入ると、奥行き30mのエントランスロビーとなっており、受付やラウンジを設けます。
 - ・子どもたちをはじめ県民の皆様が安心して施設を利用できるように、救護や授乳コーナーなど必要な管理設備を設けます。

■展示エリア

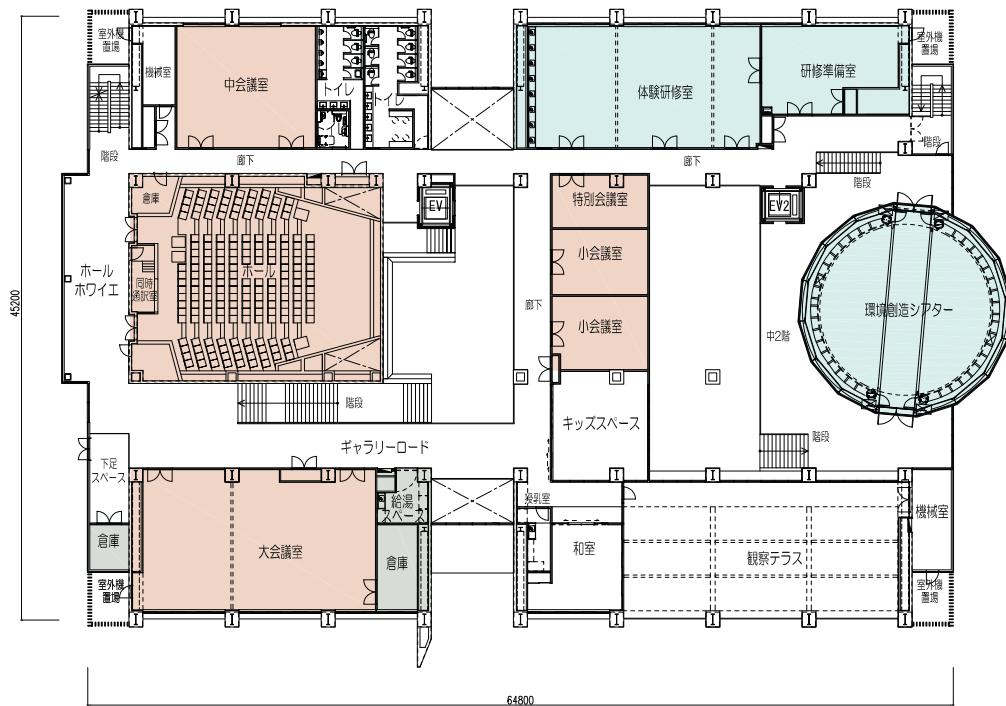
- ・入口から右手が展示エリアです。
 - ・1階は「知る・体験する」展示エリア、中2階シアターは未来を描くエリア、2階体験研修室は考え方体験するエリアとなります。
 - ・放射線や環境への「知識」から意識を醸成し「実践」へつなげます。
 - ・シアターでの映像や企画展示は、国立科学博物館と連携・協力により取り組みます。

■会議室エリア

- ・入口から左手1階には、200名収容ホール（同時通訳施設付）及び多目的研修室を配置します。
 - ・2階には大会議室（定員120名）、中会議室（定員70名）、小会議室（定員25名）3室を配置し、国際会議や学会等がスムーズに開催できます。
 - ・また、2階には地域に開かれたスペースとして、キッズコーナーや和室を設けます。
 - ・多目的トイレやエレベーターを複数設け、どなたでも利用しやすい施設となります。
 - ・2階には本館へと繋がる渡り廊下があります。



1階平面図



2階平面図



事務室等



會議室等



展示室等

■施設目的

- ・野生生物のモニタリングを専門的、効率的に行うための施設です。
- ・放射性物質と野生生物・生物多様性に関する普及啓発を行います。
- ・私たちと「野生生物」との関係を「放射線」と「私たちの生活」の観点から伝え、野生生物とその生息環境が身近につながっていることを伝えます。

建築概要

建物面積：358m²
 延床面積：299m²
 階数：地上1階
 構造：木造在来
 建物構成：研究室、処理室、事務室、飼育スペース

敷地概要

建設場所：福島県安達郡大玉村玉井字長久保地内
 敷地面積：2,453m²
 地域地区：都市計画区域外
 用途地域：無
 道路種別：西側9,000m



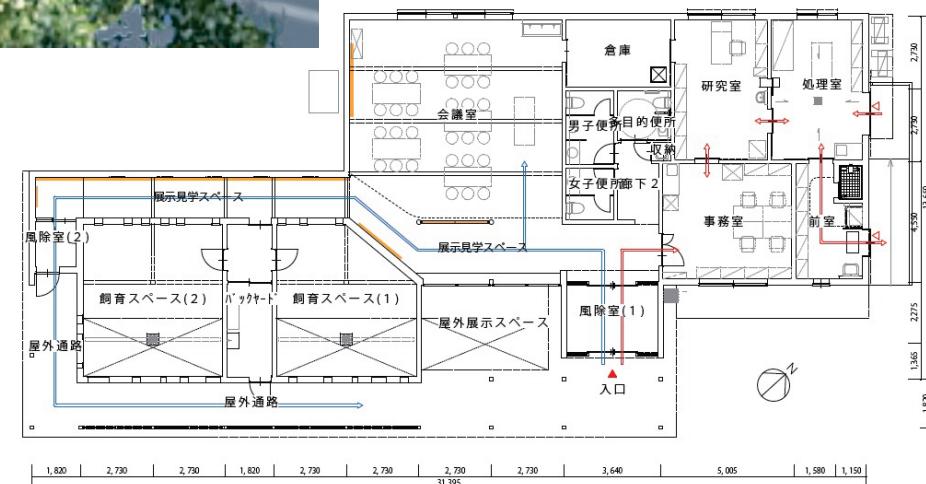
■展示のイメージ



■案内図



■平面図



■施設目的

- ・猪苗代湖と裏磐梯湖沼群における水質、放射性物質等の調査研究を効率的に行うための補助機能を有する施設です。
- ・猪苗代湖と裏磐梯湖沼群における水中の放射性物質に関する情報発信及び環境保全に関する啓発を行います。
- ・猪苗代湖周辺で自然環境に関わるNPO等の活動拠点としても活用します。

建築概要

建物面積：190m²
 延床面積：182m²
 階数：地上1階
 構造：木造在来
 建物構成：研究室、教育・研修・交流ホール、資機材保管庫

敷地概要

建設場所：福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田地内
 敷地面積：378m²
 地域地区：市街化区域 非線引区域
 用途地域：無
 道路種別：東側12m、南側8m



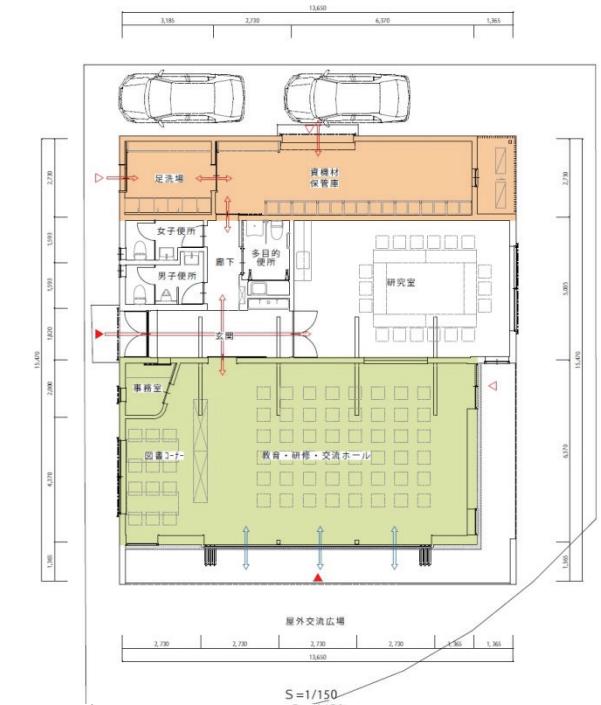
■展示のイメージ



■案内図



■平面図



○ 南相馬市施設

配置図 10

イメージパース 11

平面図 12

○ 整備スケジュール 13





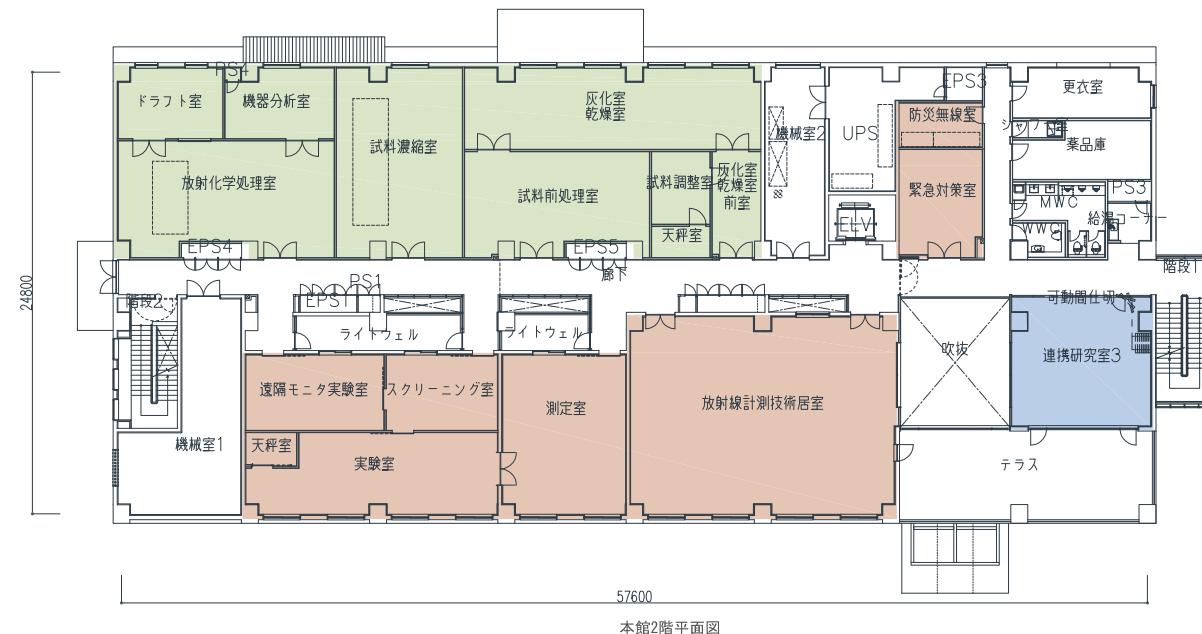
■建築概要

本館

建築面積	: 1,575m ²
延床面積	: 2,911m ²
階数	: 地上2階
構造	: 鉄筋コンクリート造
建物構成	: 分析室、監視室、事務室、会議室
招致機関	: 独立行政法人日本原子力研究開発機構

校正施設

建築面積	: 455m ²
延床面積	: 455m ²
階数	: 地上1階
構造	: 鉄筋コンクリート造
建物構成	: 放射線測定機器校正施設



■建築概要

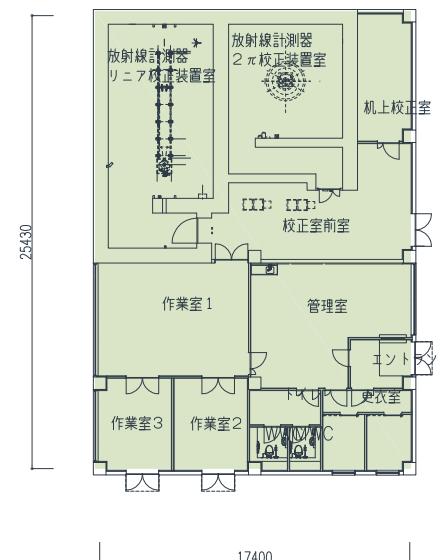
主に原子力発電所周辺施設の比較的放射能濃度が高い試料のモニタリングや安全監視を行う施設です。
地上2階、延べ2,911m²の本館と地上1階、延べ455m²の校正施設及び延べ307m²の車庫等による施設構成です。

■配置・平面計画

- 南側の道路よりアプローチする計画とします。
- 居室は南側に、窓の必要性が少ない各分析室を北側に面する配置とします。
- 放射性物質を扱う管理区域のある校正部門は、北側に別棟で配置します。
- 校正装置の設置される部屋は厚いコンクリート壁で防護し、外部への安全性を確保します。

■断面計画・各階の構成

- 管理事務室を1階に配置します。
- 1階に重量物の設置される分析室を配置します。
- 日本原子力研究開発機構(JAEA)調査・研究エリアは重量の大きいホールボディカウンター(WBC)室を除き、2階に配置します。



事務室等

放射線分析・監視エリア

日本原子力研究開発機構調査・研究エリア